

学習内容報告書 フォーマット

学校名	青森県八戸市立種差小学校
授業者	阿保 祐一

1. 単元計画

実施した活動内容に基づきご記入ください。

1-1. 単元名

美しい種差の海を守ろう

1-2. 学年

6年

1-3. 教科（単元を実施する教科を全てお書きください）

総合

1-4. 単元の概要

今、ニュース番組や新聞等で話題となることが多いSDGsの取組みを扱ったり、マイクロプラスチックに目を向けさせたりすることで、課題発見力と問題解決力を育むことをねらった。地球規模で問題となっていることについて自分なりに問題意識をもたせ、プラスチックごみ削減に向けての自分の考えを発信することをゴールとした。発表はスライドを使って行うことで、プレゼンテーションの技能を高めることができた。また、「海を守る宣言」を作製することで、今後も海を守り、地域に愛着をもつことをねらった。

1-5. 単元設定の理由・ねらい

海岸清掃や海洋ごみの調査・分類を通して、SDGsの取組みやマイクロプラスチックの地球への悪影響、動植物への影響に気付いた。地球規模で問題になっていることについて自分なりに調べ、考えをもち、種差の美しい海を守るために自分たちにできることを発信させることをねらった。

1-6. 育みたい資質や能力、態度

問題を見つける力、問題を解決する力、自分で興味関心をもったことを追究して調べる力を育む。また、プレゼンテーションソフトの使用方法に慣れることや発表力の向上も図った。

1-7. 単元の展開（全25時間）

時数	学習活動・主な内容	教師の指導 / 主な評価 外部連携 / 使用教材等
2	<ul style="list-style-type: none"> インターネットや書籍でマイクロプラスチックについて調べる。 	<ul style="list-style-type: none"> 実物大を用意する。 魚の数よりも増えてしまうかもしれないというデータを示し、危機感をもたせる。
2	<ul style="list-style-type: none"> SDGsについて知り、項目14の「海の豊かさを守ろう」について考える。 持続可能な社会とはどんな社会なのかを扱う。 	<ul style="list-style-type: none"> 社会や理科の学習と関連させる。 項目14を中心に扱うが、それ以外の項目についても関心をもたせる。 2030年の自分、2020年（今）の自分を意識させるようにする。
3	<ul style="list-style-type: none"> 海を守るために必要なことを自分なりに様々調べる。 	<ul style="list-style-type: none"> インターネットの情報を全て信じるのではなく、多くの情報に触れさせるようにする。 ネットモラルについて指導する。 引用する際は、URLを控えさせる。
5	<ul style="list-style-type: none"> 絶滅危惧種や地球温暖化など、自分で決めたテーマについて調べる。 	<ul style="list-style-type: none"> テーマがなかなか決まらない場合は、いくつかの候補を示したり、助言をしたりする。 調べたサイトをブックマークしたり、画像の取りこみ方やデータの記録の仕方を指導したりする。
13	<ul style="list-style-type: none"> 中間発表及び種小タイムの発表に向けて、資料を作成し発信する。 	<ul style="list-style-type: none"> 発表の役割分担を明確にする。 より効果的に伝わるように発表練習を繰り返させ、スライドの加筆・修正を行わせる。 聞き手を意識した発表になるように、原稿をもたないで説明させる。

2. 学習活動の実際

実施した単元中のキーとなるような時間（導入の時間・主となる活動の時間・まとめの時間など）の学習内容をご記入ください。また、複数の時間についてご記入いただける場合には、この項目をコピーして複数記入していただいて構いません。

2-1. 単元における位置づけ

単元 時間中の 時間目

※例：単元 10 時間中の 2 時間目 / 単元 15 時間中の 4, 5 時間目

2-2. 本時の目標

マイクロプラスチックとはどのようなものであるか、動植物にどのような影響を与えるのかを知る。

2-3. 本時の展開

主な学習活動 / 反応	教師の指導・支援 / 評価の視点（方法）
<p>1 プラスチックの海への影響を知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プラスチックごみがたくさん海を漂っている。 ・海にも多くが沈んでいる。 ・カメがプラスチックの漁具にからまっている。 ・クジラがプラスチックを飲み込んでいてかわいそう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・画像を準備しておく。 <div style="display: flex; justify-content: space-around;">  </div>
<p>2 マイクロプラスチックの存在を知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・マイクロプラスチックはすごく小さい。 ・これだとえさと間違えてしまいそう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・マイクロプラスチックの大きさを体感させる。 
<p>3 マイクロプラスチックが他にどのような影響を及ぼしているのかを調べる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・マイクロプラスチックの海洋生物への悪影響についてパソコン等を使って各自に調べさせる。
<p>4 分かったことを記録する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・パソコンを使った場合は、参考になったサイトをブックマークしたり、スクリーンショットしたりする方法を知らせる。
<p>5 ごみを拾うだけでは問題が解決しないことに気づき、解決策を考える、</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・マイクロプラスチック問題を解決するために、ごみを拾い続けようと児童に投げかける。
<p>6 今後調べてみたいことを発表する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・興味をふくらませる。

3. 今回の活動の自己評価

マイクロプラスチックの大きさの体感が有効だった。熱や紫外線でプラスチックが細かくなり、マイクロプラスチックとなることを分かった児童は、より一層、プラスチックごみを海から減らすことが大切だと考えた。また、「海洋ゴミやプラスチックを拾い続けよう」と児童に問いかけることで、自分たちが海洋ゴミを拾うことには限界があること、マイクロプラスチックは拾うことができないこと等に気づき、ごみを捨てない、増やさないといったリデュースの視点をもたせることに有効だった。自分たちでできることにはどんなことがあるかを自由に考えさせることが次時の活動につながった。

4. 今後の課題

海洋ごみの問題や絶滅危惧種の解消、地球温暖化は、自分たちだけの力では到底解決しない。しかし、自分たちで日常的にできることを考え、実行していくことに意味がある。仲間を増やすこと、ちょっとしたことから始めること、続けることが大切となる。そのためにも、児童の主体性を引き出すような教師による教材研究や児童の意欲や探究心の持続に焦点を当てながら、総合的な学習の時間の年間計画をバージョンアップ・軌道修正していく必要がある。また、教科感の連携もさらに進めていきたいと考える。

5. 本学習内容報告書活用にあたっての留意点

拾っても、拾ってもプラスチックごみはなくなることから、意欲の低下が起こらないようにしたい。そのためにも、たとえば、本校の取り組みのように一般社団法人J E A Nにごみ調査データを提出するといった達成感を味わえるような方策を準備したい。環境問題は多岐にわたるため、ある程度、絞った領域で、身近な身に付いて考えていく活動を仕組んでいくことも大切だと考える。いずれにしても、地域の実態、学校の実態に即した教材を開発し、児童の地域への愛着や生涯を通して環境を守っていく態度を育てていきたい。

※実施した単元ごとに作成してください。

※写真、画像、図表等の使用可。必要に応じて記入欄やページ数を増やしても構いません。

※基本レイアウト

フォント：MS 明朝、10.5 ポイント / マージン：上下端 20mm、左右端 16mm

※ファイル名は「学習内容報告書_学校名」とし、複数提出する場合は学校名の後に数字を記載してください。

例：学習内容報告書_海洋市立パイオニア小学校 1

※年間指導計画（年間の指導計画における単元の位置づけが分かる資料）があれば別添資料として提出してください。フォーマットの指定はありません。